

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	愛媛県松山市別府町183番地2
自己評価作成日	2011(平成23)年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者様のニーズを職員間で共有し、必ず相談しながらQOLの向上に向けて統一したサービスを提供し、問題解決に取り組んでいます。 ②施設内外の研修、勉強会、資格取得等、積極的にスキルアップを目指しています。 ③24時間365日対応の医療連携をしており、安心して健康管理をしています。 ④1年を通じて四季折々の花が咲き、利用者と育て、植木も生き生きとしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先や事業所内のいたるところに観葉植物や花が飾られており、リビング等の共用空間は風通しがよく、利用者が戸惑う様な騒音等もなくゆったりと過ごすことができる。年1回家族会を開催し交流を深め、家族からの意見や要望を聞き取っている。オーナーの知り合いや地元に住んでいる職員のつながりでボランティアが来てくれたり、地元の行事に参加したり、お祭りでは神輿が入り利用者は喜んでいる。看取りの指針を改定し協力医と話し合いを行いながら、利用者本位の終末期ケアを行うよう取り組みが進められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 媛の華
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	大原 チスカ
評価完了日	2011(平成23)年9月9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 設問の通り実践しており、運営理念を念頭に置き業務に当たると共に、今年度より毎年度新規に立てる運営方針及び行動指針を作成し、着実に実践している。また、主に朝礼・職員会において、それら理念に基づいた指導を管理者を中心として行っている。</p> <p>(外部評価) 基本理念に基づいた運営方針を立て年度末に運営方針等の反省を職員の意見を聞きながら実施し、新年度に向けての運営方針を作成している。作成した運営方針は、4月の職員会で発表し、職員全員が実践に向けて取り組めるよう周知している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) お隣に住まれている方やボランティアの方が来訪されることで交流しており、七夕の時期には笹を持って来て下さる方や、家庭菜園で栽培されたキュウリを持って来て下さる方もいる。また、運営推進会議の定期開催に伴い、地域住民の方にも出席いただいております。その他施設行事についても参加を呼び掛けている。</p> <p>(外部評価) オーナーの知り合いや地元に住んでいる職員のつながりでボランティアが来てくれたり、地元の行事に参加したりしながら、良好な関係を築くことができています。地区の民生委員やお宮の総代が積極的に関わってくれ、お祭りには神輿が入ってくれ利用者も喜んでいます。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や慰問の受け入れ、外出時などに、認知症の方に対する理解や支援のお願いを口頭または書面を以て行っている。また、消防署等の外部関係機関の方にも来訪時にご説明し、ご理解いただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、施設での実践（利用者の生活、職員の業務、その他の施設での取り組み等）をパワーポイントなどを使用してプレゼンテーションを行い、話し合いを行っている。また、そこで得られた意見を元に更に話し合いを進め、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は1階と2階の職員が交互に議題を考え、職員が中心となって運営されている。会議中の雰囲気を読み取れるほど詳細な議事録が作成され、丁寧に保存されている。参加者から出された意見は、速やかに事業所の運営や提供するケア等に反映されるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 主に電話にて必要に応じ連絡を取り、適切な施設運営（事務手続き・ケアサービスに関する事項等）ができるよう指導・助言を得ると共に、内容に応じ協力依頼を行っている。また、運営推進会議や訪問調査等においても、必要に応じ施設における取組み等について報告を行っており、不明な点・解消すべき点がある場合には助言・指導を受けるなど、日頃より相互協力体制の構築と、その維持に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や地域包括支援センターの職員が積極的に参加してくれている。困難事例や生活保護等に関することに相談に乗ってくれたり、助言をもらう等良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内研修にて身体拘束の定義について正しく学び、原則禁止の前提に立って介護を行っている。現在、身体拘束の対象となっている利用者はいない。	
			(外部評価) 玄関は自由に出入りができるようになっている。敷地の前の道路は、車の往来が激しいので職員は常に利用者の動向を確認し、利用者が外出する際には職員が同行する等、安全で自由な暮らしを支援している。言葉の拘束に関しても細心の注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内研修にて高齢者虐待について、法的な内容や職員の義務等を学び、虐待防止に向けて意識統一を図っている。また、日々の介護の中でも、無意識のうちに虐待が行われることのないよう、声掛けやケアの内容を職員相互に確認し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 昨年に引き続き、施設内研修『高齢者虐待防止に関する研修』にて「成年後見制度」に関する内容を含めた研修を実施する予定となっている。現在、2階利用者様（1名）の家族が、成年後見制度を利用しており、必要時には後見人と連絡を取り合いながら利用者支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 設問の通り実践しており、契約変更または新たに同意を得る場合などには、まず書面にて変更理由・契約内容などに関する説明を行い、不明な点がある方には口頭にてご説明している。ご理解及びご納得いただいた場合には、署名・捺印をいただき、施設までご返送またはご持参いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会等で利用者家族から直接意見を聞く機会を設けている。また、運営推進会議報告書を送付する際、ご意見をいただくようご意見シートを同封し、ご意見をいただくようお願いするなどしている。ご意見、要望をいただいた際には、検討を行い、運営に活かせるよう努めている。 (外部評価) 家族会を年1回開催したり、運営推進会議に参加してもらい意見や要望を出してもらっている。また、意見箱を設置したり、運営推進会議の資料に意見欄を設ける等の工夫もしている。面会の時やケアプランの確認の時に直接意見を聞く機会もあり、出された意見は可能な限り運営等に反映するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝の引き継ぎの際、管理者より職員に意見の有無を確認しており、必要に応じ職員と個別に話し合いを行うことで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、その意見や提案が施設運営に反映できる内容であれば、そのようにしている。 (外部評価) 職員会ではケアに関することや運営に関すること等、様々な意見や要望が出されている。管理者は必要に応じて個別の面談を行い、常に職員の意見をくみ取ることができる体制を整えている。職員からの要望で1階と2階の人事異動は行なわない等、管理者は職員の意見を最大限に尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 設問の通り実践すると共に、介護職員処遇改善交付金においても、職員が向上心を持てるよう2段階（勤続年数と取得資格、及び職務態度の2段階）に分けて評価を行っており、各自資格取得に向けて邁進している。また、必要備品を購入したり、必要に応じ職員と個別に話す機会を設けることで、働きやすい環境整備にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内研修の実施（毎月職員会にて実施、また必要に応じ個別に対応）、資質向上及び資格取得に向けた施設外研修への参加に向けた支援（シフト表の調整、研修費用支給など）を行っている。また、新任職員に対する新任研修（個別に実施）を行うことで、経験の浅い職員や若い職員のベース作りを行っている。更に、各職員に応じた指導を行うことで、介護技術の向上や教養指導にも取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他の施設の運営推進会議などに参加していただき、交流を図ると共に、県外の施設訪問や、日本認知症グループホーム大会への参加を通じ、ネットワーク拡大に努めている。また、他施設からも当施設運営推進会議等にご出席いただくことで、交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ケアマネジャー、看護師、SWが事前調査により情報収集を行うことで、それに沿った受入準備を行っている。また、サービス開始の際には、ケアマネジャーを中心としてアセスメントを行うと共に、入所初日より、管理者、看護師、介護職員も利用者の話に耳を傾け、安心して生活していただけるよう信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族の要望を聞き取り、不安や不便の解消に努めると共に、今後の対応等についても話し合うことで、良好な利用者ケアのための関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時には、管理者、ケアマネジャー、看護師、相談員、介護職員を中心に家族及び利用者の話を聞くと共に、利用者が環境の変化に早く対応できるように声掛けを密にし、不安の解消とニーズの把握に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の尊厳を守りながら、その方の趣味、特技を理解し、家事手伝い、作品作り等をお願いしており、職員と共にいる。また、日常の暮らしの中でも、利用者との会話や話し合いを行うことで、一方通行の関係にならないよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、利用者の近況をコメントシートにより家族に報告し、その他、必要な報告や連絡は、適宜、電話やメールを通じて行っている。 また、面会時等においても、利用者の状況報告をすることで、利用者との関係維持に寄与できるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族が面会に来られた際には、日常のご様子や健康状態をお伝えしている。また、希望される方は、行きつけの美容院にも家族と一緒に定期的に行かされており、家族、友人、知人からのお電話があった際には、ご本人とお話していただいている。 (外部評価) 利用者が重度化傾向にあるため、徐々に馴染みの関係を継続することが難しくなってきたが、家族や友人等の面会があったり、電話がかかってきた時は関係が途切れないよう支援を行っている。また、事業所内でできた新しい馴染みの関係についても継続できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が声掛けし合えるように、職員が会話を仲立ちしている。また、利用者同士で一緒に何かできるよう、余暇活動やレクリエーションを考え、実践している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 1階利用者については現在のところ、該当される方はいないが、2階の利用者の中には、入院による退所となっても、療養後、本人、家族に再入所の希望がある場合には受入可能な状態かどうかを検討し、再入所されたケースがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時に本人の意向を聞き取り、プランに反映させ、実行できるよう努めている。また、意思疎通困難な利用者に対しては、相手の側に立ってニーズの掘り起こしを行い、その方に応じた対応に努めている。 (外部評価) オーナーに思いを伝えてくる利用者もおり、全員で利用者の思いや意向の把握に努めている。思いがうまく伝えられない利用者については、家族から生活歴等を聴取し、支援に反映させている。支援している中で得た利用者の情報については、ケアプランに反映させたり、家族に報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に利用者、その家族から生活歴、入所に至る経緯を聞き取り、また、日常の会話の中で聞き取った生活歴等を記録し、日々のケアに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の状態の変化や行動、会話の内容等の情報を1日の様子が分かるように介護記録へ残し、職員間で情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の要望を踏まえて、関係職員（管理者、S W、看護師、担当職員、ケアマネ等）が話し合い、本人らしく残存能力を活かしたプランを作成するよう努めている。	
			(外部評価) 担当職員が素案を作成したり、計画作成担当者が原案を作成しており、全職員が必ず携わるようにしている。利用者や家族の意向等を踏まえ、職員全員で検討して作成している。3か月ごとに見直しているが、利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行い現状に即した計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者個々のケース記録に様子・状態の変化、本人・家族の要望、会話の内容、ケアプランの実施状況等を記録し、ユニット全職員が内容を確認。介護計画見直し時のアセスメント、モニタリングに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様一人ひとりにあったケアができるように、個別ケアの見直しを行ったり、個別ニーズに沿って作成したケアプランに基づき、介護を行っている。また、家族や本人からの要望があった場合には、できる限り希望に沿えるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地方祭では地域の神輿が入ることで、祭の雰囲気を楽しんでいただいている。また、大正琴、日舞、フォークダンス、ギター演奏など、慰問ボランティアに来ていただいております、利用者もそれを楽しみにされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人および家族の希望である「24時間いつでも駆け つけられる協力医療機関」への変更を行い、安心して 医療を受けることのできる環境が整えられ、適切な医 療を受けておられる。また、ホームの看護師が密に連 絡を取り合い、適切な医療を受けられるよう支援して いる。協力医療機関以外に主治医がある場合には、他 の医療機関へ受診していただいております、協力医療機関 との連携も行っている。 (外部評価) 病院受診は基本的には職員が行っているが、利用者の 家族にも協力をしてもらうこともある。在宅医療を中 心に行っている医師に協力医として24時間体制で 入ってもらっているので、利用者や家族は安心であ る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、利用者の小さな変化も職場内の看護師に 伝達・相談を行っている。職場の看護師は、協力医療 機関の看護師に相談することで、利用者にもその時に 応じた診察（往診）、看護を受けていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際には、病院を訪問したり、病院 看護師、ケースワーカーなどと連絡を取り、情報交換 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 協力医療機関変更により、看取りに関する指針及び手 引き等については、現在作成途中である。完成次第、 家族への送付を行うと共に、職員への研修等を通じ、 看取り介護に取り組む予定である。 (外部評価) 「看取り介護に関する指針及び規定」を作成している。 また、利用開始時に利用者や家族に説明を行い同意書 を作成している。状態の変化に応じて協力医と話し合 いを行いながら、利用者本位の終末期ケアを行うよう 取り組んでいる。	看取りに関する指針を見直し完成したばかりであるた め、利用者や家族、職員にも周知して行く必要があ る。また、新しい指針を基に看取りについての研修会 や勉強会を行い、職員の資質向上を目指し、より良い 終末期ケアが行えるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時やけがの際の応急手当の方法を、施設内研修にて実演を交えながら周知している。今後、1人1人に職員対応の訓練を施設内研修にて実施予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災についての訓練は消防署と連携し、行っている。また、地震に対する訓練を消防署の協力の下、これから実施する予定である。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練等を行い、スプリンクラーや消火器を設置している。また、不審火の対策としてごみは夜間に出さないようにする等、取り決めをしている。地震については、起震車に来てもらい地震体験をするよう予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者1人1人の今までの人生・生き方などを理解し、その方々に適した対応を行っている。特に、入浴や排泄、更衣の際などに、利用者が羞恥心を感じることを無いうよう努めている。 (外部評価) 言葉遣いについては一人ひとりが気を付けているが、不適切な場合は職員同志で注意し合うようにしている。個人情報については、細かな規定がされており、たよりに掲載する写真についても配慮がされている。掲載の承諾が得られない利用者については、個別のたよりを作成している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 積極的に発言できない利用者に対しては、常に声掛けし、できる限り発言していただけるよう心がけると共に、利用者が生活の中でできること、したいこと、好きなこと、趣味などを引出し、それに沿うことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 人間らしい生活をするを基本としながらも、利用者が穏やかに過ごすことができるよう支援すると共に、日中活動をはじめ、季節行事の実施や希望する食事、おやつを提供によっても、1人1人に沿った支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えを行う時は、今日はどの色にするか、どのようなデザインの服が良いかを聞き、一緒に選んでいる。女性の方にはマニキュアを塗り、おしゃれをさせていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下処理や料理、味見、後片付け等1人1人の能力に応じたお手伝いをさせていただき、その際にも会話を楽しみながら参加していただいている。	
			(外部評価) 利用者に庭でパセリやトマトのお世話を手伝ってもらい、収穫したものを食事の材料として取り入れている。随時利用者からのリクエストに答えている。介助の必要な利用者に対しては職員が付き添い、楽しく食事をしてもらうように声かけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 嚥下能力や食べ方、病状に合わせて食体を提供し、摂取量を記録している。食事の様子も介護記録に記録することで、状態の変化に気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後実行できている。自立、半介助、全介助に応じた対応を行っており、毎晩、ポリデントによる洗浄を行うと共に、清潔維持に配慮している。また、ケアした後は必ずチェック票にその内容を記録している。日曜日には口腔チェックを実施することで、ケアの見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 座位保持可能な利用者は、トイレでの排泄を基本としている。排泄パターンを把握し、失禁を減らす努力をしている。また、トイレ内でも、全て職員が行うのではなく、本人ができるところまでしていただき、できないところを介助するようにしている。	
			(外部評価) 排泄には何らかの支援が必要な利用者がほとんどであるため、それぞれに応じた支援が行われている。また、自立を促すだけでなく、水分の摂取量や尿量の計測を行い、必要に応じて健康管理としてチェックをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い食品、乳製品などを摂取すると共に、日々のリハビリを行うことで少しでも運動を行い、便秘の予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、入浴時間や順番等は利用者の希望に沿って対応している。また、入浴日以外には、希望者に対し足浴を実施している。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、希望によりいつでも入浴できるようにしている。機械浴を使用している利用者もおり、身体状況に応じて安全で安楽に入浴できるよう対応がされている。入浴が苦手な利用者に対しては、職員が声かけ等の対応に工夫をして、気持ちよく入浴してもらうよう支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は本人の希望に沿って、朝・昼の30分～1時間の休憩はしていただいている。夜は消灯時間(21:00)まで利用者様に自由に過ごしていただくことで、気持ちよく休めるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の一包化及び氏名・服薬時間の印字を行い、誤薬が無いよう努めている。また、新しい薬が処方された際は、処方された理由などの申し送りを徹底し、ユニット全職員が変化などを観察し、必要に応じ記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人1人の利用者様の生活歴などを参考にし、本人の趣味、楽しみごとなどをできる範囲でしていただいている。また、季節のイベントなどの外出支援もしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節のイベントに利用者の希望などを聞いて外出している。個人的な外出については、家族に了解をいただき、管理者、看護師に相談の下、外出している。	
			(外部評価) 花見やさつき展、菊花展等季節の花を見に行ったり、お芝居を観劇する等、利用者に希望を聞きながら外出を行っている。利用者が重度化傾向にあるため、体調を確認しながら行うようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望があれば利用者様と一緒に外出し、実際にレジでお金の受け渡しをしていただき、買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様に暑中見舞いなどを家族に書いていただき、出したりしている。利用者様は家に用事がある時などは、電話をかけて要件を伝えていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 心が和むよう、ホーム周りには四季折々の花や植木が植えられ、室内は常に明るく、毎月、利用者様と共に製作した作品が飾られており、廊下、居室、玄関など各所には花（生花、造花）や置物がある。	
			(外部評価) リビング等の共用空間は風通しがよく、利用者が戸惑う様な騒音等もなくゆったりと過ごすことができる。いたるところに花や植物が置かれ、壁にはジグソーパズルが多数飾られている。浴室やトイレ等の清掃も行き届いて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでの昼食やおやつの際には、談話できるような気の合った利用者には隣同士で座っていただき、外の散歩時には休息できるベンチを用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者様入所以前に使われていた鏡台、小物を個室に設置している。居室の壁には、毎月、ご自分で塗り絵をした季節感あふれるカレンダーを貼ったり、作品を貼って落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者が使ってきた馴染みのものを持ち込み、落ち着いて生活できる空間になっている。また、家族の写真やぬいぐるみ等を飾り個性豊かな居室づくりがされている。快適に過ごすことができるようエアコンや空気清浄機も備えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様1人1人の個別ケアを見直し、平行棒、歩行訓練等により安全に生活できるよう自立支援を行っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	愛媛県松山市別府町183番地2
自己評価作成日	2011(平成23)年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①運営推進会議を通じ、関係機関の方々と交流を図り、連携を密にしておく努力をしています。 ②季節の移り変わりを感じていただけるよう、ドライブ等を花が咲く時期に合わせて実施しています。 ③施設内研修、勉強会、資格取得等、積極的にスキルアップを目指しています。 ④施設敷地内には、1年を通じて四季折々の花が咲き、利用者と育て、植木も生き生きとしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関先や事業所内のいたるところに観葉植物や花が飾られており、リビング等の共用空間は風通しがよく、利用者が戸惑う様な騒音等もなくゆったりと過ごすことができる。年1回家族会を開催し交流を深め、家族からの意見や要望を聞き取っている。オーナーの知り合いや地元に住んでいる職員のつながりでボランティアが来てくれたり、地元の行事に参加したり、お祭りでは神輿が入り利用者は喜んでいる。看取りの指針を改定し協力医と話し合いを行いながら、利用者本位の終末期ケアを行うよう取り組みが進められている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 媛の華

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 大原 チスカ

評価完了日 平成23(2011)年9月9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念、本年度の運営方針及び行動指針を共有し、実現に向けて取り組むと共に、主に朝礼・職員会において、それら理念に基づいた指導を管理者を中心として行っている。</p> <p>(外部評価) 基本理念に基づいた運営方針を立て年度末に運営方針等の反省を職員の意見を聞きながら実施し、新年度に向けての運営方針を作成している。作成した運営方針は、4月の職員会で発表し、職員全員が実践に向けて取り組めるよう周知している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) お隣に住まれている方やボランティアの方が来訪されることで交流しており、七夕の時期には笹を持って来て下さる方や、家庭菜園で栽培されたキュウリを持って来て下さる方もいる。また、運営推進会議の定期開催に伴い、地域住民の方にも出席いただいております。その他施設行事や地域の小学生の訪問、地域行事への参加を通じて交流している。</p> <p>(外部評価) オーナーの知り合いや地元に住んでいる職員のつながりでボランティアが来てくれたり、地域の行事に参加したりしながら、良好な関係を築くことができている。地区の民生委員やお宮の総代が積極的に関わってくれ、お祭りには神輿が入ってくれ利用者も喜んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等を通じ、地域の人々への声掛けを行うと共に、認知症症状の見られる方を民生委員へ知らせる等している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、近況報告をはじめ、施設での実践などをパワーポイントを使用しながらプレゼンテーション行っている。また、会議録を共有し、後に話し合いを行うことで、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は1階と2階の職員が交互に議題を考え、職員が中心となって運営されている。会議中の雰囲気を読み取れるほど詳細な議事録が作成され、丁寧に保存されている。参加者から出された意見は、速やかに事業所の運営や提供するケア等に反映されるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 主に電話にて必要に応じ連絡を取り、適切な施設運営（事務手続き・ケアサービスに関する事項等）ができるよう指導・助言を得ると共に、内容に応じ協力依頼を行っている。また、運営推進会議や訪問調査等においても、施設における取組み等について報告を行っており、不明な点・解消すべき点がある場合には助言・指導を受けるなど、日頃より相互協力体制の構築と、その維持に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や地域包括支援センターの職員が積極的に参加してくれている。困難事例や生活保護等に関することに相談に乗ってくれたり、助言をもらう等良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内研修にて身体拘束の定義について正しく学び、原則禁止の前提に立って介護を行っている。現在、身体拘束の対象となっている利用者はいない。	
			(外部評価) 玄関は自由に出入りができるようになっている。敷地の前の道路は、車の往来が激しいので職員は常に利用者の動向を確認し、利用者が外出する際には職員が同行する等、安全で自由な暮らしを支援している。言葉の拘束に関しても細心の注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内研修等で学ぶ機会を持ち、虐待となる言葉掛けやケアなどをする事の無いよう、その防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 昨年に引き続き、施設内研修『高齢者虐待防止に関する研修』にて「成年後見制度」に関する内容を含めた研修を実施する予定となっている。現在、2階利用者様（1名）の家族が、成年後見制度を利用しており、必要時には後見人と連絡を取り合いながら利用者支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 設問の通り実践しており、契約変更または新たに同意を得る場合などには、まず書面にて変更理由・契約内容などに関する説明を行い、不明な点がある方には口頭にてご説明している。ご理解及びご納得いただいた場合には、署名・捺印をいただき、施設までご返送またはご持参いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会等で利用者家族から直接意見を聞く機会を設けている。ご意見、要望をいただいた際には検討を行い、運営に活かせるよう努めている。また、運営推進会議報告書を送付する際、ご意見をいただくようご意見シートを同封し、ご意見をいただくようお願いするなどしている。 (外部評価) 家族会を年1回開催したり、運営推進会議に参加してもらい意見や要望を出してもらっている。また、意見箱を設置したり、運営推進会議の資料に意見欄を設ける等の工夫もしている。面会の時やケアプランの確認の時に直接意見を聞く機会もあり、出された意見は可能な限り運営等に反映するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 朝の引き継ぎの際、管理者より職員に意見の有無を確認しており、必要に応じ職員と個別に話し合いを行うことで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、その意見や提案が施設運営に反映できる内容であれば、そのようにしている。その他、職員会、施設内研修、勉強会、個別ケア検討会等の中でも提案や意見を聞くことで、それらを施設運営又は利用者ケアに反映させている。</p> <p>(外部評価) 職員会ではケアに関することや運営に関すること等、様々な意見や要望が出されている。管理者は必要に応じて個別の面談を行い、常に職員の意見をくみ取ることができ体制を整えている。職員からの要望で1階と2階の人事異動は行わない等、管理者は職員の意見を最大限に尊重している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 設問の通り実践すると共に、介護職員処遇改善交付金においても、職員が向上心を持てるよう2段階（勤続年数と取得資格、及び職務態度の2段階）に分けて評価を行っており、各自資格取得に向けて邁進している。また、必要備品を購入したり、必要に応じ職員と個別に話す機会を設けることで、働きやすい環境整備にも努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内研修の実施（毎月職員会にて実施、また必要に応じ個別に対応）、資質向上及び資格取得に向けた施設外研修への参加に向けた支援（シフト表の調整、研修費用支給など）を行っている。また、新任職員に対する新任研修（個別に実施）を行うことで、経験の浅い職員や若い職員のベース作りを行っている。更に、各職員に応じた指導を行うことで、介護技術の向上や教養指導にも取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他の施設の運営推進会議などに出席させていただき、交流を図ると共に、県外の施設訪問や、日本認知症グループホーム大会への参加を通じ、ネットワーク拡大に努めている。また、他施設からも当施設運営推進会議等にご出席いただくことで、交流を図っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ケアマネジャー、看護師、SWが事前調査により情報収集を行うことで、それに沿った受入準備を行っている。また、サービス開始の際には、ケアマネジャーを中心としてアセスメントを行うと共に、入所初日より、管理者、看護師、介護職員も利用者の話に耳を傾け、安心して生活していただけるよう信頼関係の構築に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族の要望を聞き取り、不安や不便の解消に努めると共に、今後の対応等についても話し合うことで、良好な利用者ケアのための関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時には、管理者、ケアマネジャー、看護師、相談員、介護職員を中心に家族及び利用者の話を聞くと共に、利用者が環境の変化に早く対応できるように声掛けを密にし、不安の解消とニーズの把握に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者にも手伝い（主に食事の下ごしらえやお盆拭きなど）や新聞・洗濯物たたみ、作品作り等をお願いしており、職員と共に行っている。また、日常の暮らしの中でも、利用者との会話や話し合いを行うことで、一方通行の関係にならないよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、利用者の近況をコメントシートにより家族に報告し必要な報告や連絡は、適宜、電話やメールを通じて行っている。面会時等においても、利用者の状況報告をすることで、利用者との関係維持に寄与できるよう努めている。また、家族の要望、都合に配慮し、可能な範囲で行事等への参加をお願いし、利用者との絆の維持に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・友人との外出支援を行うと共に、利用者と面会者が居室にて過ごせるよう配慮している。また、利用者や家族・友人が希望した場合には電話等で連絡を取るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) 利用者が重度化傾向にあるため、徐々に馴染みの関係を継続することが難しくなってきたが、家族や友人等の面会があったり、電話がかかってきた時は関係が途切れないよう支援を行っている。また、事業所内でできた新しい馴染みの関係についても継続できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人とあまり関わることが苦手な利用者に対しては、職員が間に入り、利用者同士が関わり合えるよう支援している。また、利用者同士のトラブルを避けるため、席替え等を行うことで、心穏やかに生活できるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 2階利用者の中で、最近、入院による退所となったが、療養後、本人、家族に再入所の希望があり、受入可能な状態かどうかを検討し、再入所していただいたケースがあった。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時に本人の意向を聞き取り、プランに反映させ、実行できるよう努めている。また、意思疎通困難な利用者に対しては、相手の側に立ってニーズの掘り起こしを行い、その方に応じた対応に努めている。 (外部評価) オーナーに思いを伝えてくる利用者もおり、全員で利用者の思いや意向の把握に努めている。思いがうまく伝えられない利用者については、家族から生活歴等を聴取し、支援に反映させている。支援している中で得た利用者の情報については、ケアプランに反映させたり、家族に報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に利用者、その家族から生活歴、入所に至る経緯を聞き取り、また、日常の会話の中で聞き取った生活歴等を記録し、日々のケアに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の状態の変化や行動、会話の内容等の情報を1日の様子が分かるように介護記録へ残し、職員間で情報共有を行っている。また、朝礼での申し送り及び夕の引き継ぎの際などにも、利用者の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の要望を踏まえて、関係職員（管理者、S W、看護師、担当職員、ケアマネ等）が話し合い、本人らしく残存能力を活かしたプランを作成するよう努めている。また、個別ケア検討会も別途開催することで、より良いケアができるよう努めており、家族とも電話や面会、家族会などにおいて意見交換を行っている。 (外部評価) 担当職員が素案を作成したり、計画作成担当者が原案を作成しており、全職員が必ず携わるようにしている。利用者や家族の意向等を踏まえ、職員全員で検討して作成している。3か月ごとに見直しているが、利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行い現状に即した計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 実践できている。個別のケース記録へ記入し、気づきや変化等あれば、朝・夕の申し送りや職員会等において情報を共有し、ケアプランの作成に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様一人ひとりにあったケアができるように、個別ケアの見直しを行ったり、個別ニーズに沿って作成したケアプランに基づき、介護を行っている。また、家族や本人からの要望があった場合には、できる限り希望に沿えるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地方祭では地域の神輿が入ることで、祭の雰囲気を楽しんでいただいている。また、大正琴、日舞、フォークダンス、ギター演奏など、慰問ボランティアに来ていただいている、利用者もそれを楽しみにされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>本人および家族の希望である「24時間いつでも駆けつけられる協力医療機関」への変更を行い、安心して医療を受けることのできる環境が整えられ、適切な医療を受けておられる。また、ホームの看護師が密に連絡を取り合い、適切な医療を受けられるよう支援している。協力医療機関以外に主治医がある場合には、他の医療機関へ受診していただいております、協力医療機関との連携も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>病院受診は基本的には職員が行っているが、利用者の家族にも協力をしてもらうこともある。在宅医療を中心にしている医師に協力医として24時間体制で入ってもらっているため、利用者や家族は安心である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>介護職員は、利用者の小さな変化も職場内の看護師に伝達・相談を行っている。職場の看護師は、協力医療機関の看護師に相談することで、利用者にもその時に応じた診察（往診）、看護を受けていただいている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が入院された際には、病院を訪問したり、病院看護師、ケースワーカーなどと連絡を取り、情報交換を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関変更により、看取りに関する指針及び手引き等については、現在作成途中である。完成次第、家族への送付を行うと共に、職員への研修等を通じ、看取り介護に取り組む予定である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「看取り介護に関する指針及び規定」を作成している。また、利用開始時に利用者や家族に説明を行い同意書を作成している。状態の変化に応じて協力医と話し合いを行いながら、利用者本位の終末期ケアを行うよう取り組んでいる。</p>	看取りに関する指針を見直し完成したばかりであるため、利用者や家族、職員にも周知して行く必要がある。また、新しい指針を基に看取りについての研修会や勉強会を行い、職員の資質向上を目指し、より良い終末期ケアが行えるよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時やけがの際の応急手当の方法を、施設内研修にて実演を交えながら周知している。今後、1人1人に職員対応の訓練を施設内研修にて実施予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災についての訓練は消防署と連携し、行っている。また、地震に対する訓練を消防署の協力の下、これから実施する予定である。 (外部評価) 夜間を想定した避難訓練等を行い、スプリンクラーや消火器を設置している。また、不審火の対策としてごみは夜間に出さないようにする等、取り決めをしている。地震については、起震車に来てもらい地震体験をするよう予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 設問の通り実践している。 (外部評価) 言葉遣いについては一人ひとりが気を付けているが、不適切な場合は職員同志で注意し合うようにしている。個人情報については、細かな規定がされており、たよりに掲載する写真についても配慮がされている。掲載の承諾が得られない利用者については、個別のたよりを作成している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 実践できている。 日々のケアの中で信頼関係を築き、思いや希望を表しやすいよう努めると共に、自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 人間らしい生活をするを基本としながらも、利用者が穏やかに過ごすことができるよう支援すると共に、日中活動をはじめ、季節行事の実施や希望する食事、おやつ提供によっても、可能な限り1人1人に沿った支援ができるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日常の身だしなみ以外にも、女性利用者に好評のマニキュアをするなど、女性らしくいられる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1日(小豆ごはんの日)、15日(お寿司の日)は特別メニューをお出ししており、その他の日も、バラエティーに富んだメニュー作りに努めている。そのため、利用者からは好評を得ている。また、料理の下ごしらえや片付け(お盆拭きや食器洗い等)を手伝っていただくことで、食事作りに参加していただいている。 (外部評価) 利用者に庭でパセリやトマトのお世話を手伝ってもらい、収穫したものを食事の材料として取り入れている。随時利用者からのリクエストに答えている。介助の必要な利用者に対しては職員が付き添い、楽しく食事をしてもらうように声かけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要な方には、一口大にカットしたり、小分けにしてお出ししたり、また、アレルギーのある方には代替食をお出しするなど、その方に応じた食事を提供できるよう努めている。また、水分摂取についても、おやつ以外の時間以外に飲み物をお出しすることで、脱水症状を起こさないよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアをしており、必要に応じて職員が介助している。また、毎晩、ポリドントを使用して義歯消毒を実施しており、口腔ケア用品(コップ、歯ブラシなど)は定期的に消毒することで、衛生管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを掴むことで、失禁を減らすよう努めている。また、認知症や身体機能の重度化により、完全な自立となるのは困難であるが、今以上に重度化しない支援ができるよう努めている。	
			(外部評価) 排泄には何らかの支援が必要な利用者がほとんどであるため、それぞれに応じた支援が行われている。また、自立を促すだけでなく、水分の摂取量や尿量の計測を行い、必要に応じて健康管理としてチェックをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維や牛乳、水分の摂取に努めると共に、便秘に良いとされる食材の利用や、リハビリを通じて運動するより便秘にならないよう努めている。しかし、どうしても便秘が続くようであれば、服薬により、便秘を解消している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、その日の気候や利用者の体調に留意しながら、できる限り、利用者が気持ち良いと感じられる入浴支援を行っている。温度や時間をなるべく利用者の希望に合わせ、長湯が好きな方は顔色や時間に気を付けながら、できる限り利用者の意向を尊重した入浴介助ができるよう努めている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、希望によりいつでも入浴できるようにしている。機械浴を使用している利用者もおり、身体状況に応じて安全で安楽に入浴できるよう対応がされている。入浴が苦手な利用者に対しては、職員が声かけ等の対応に工夫をして、気持ちよく入浴してもらうよう支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 設間の通り実践している。また、昼夜逆転することのないよう、昼間は可能な限りリビングで過ごしていただき、夜ぐっすり眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の一包化及び氏名・服薬時間の印字を行い、誤薬が無いよう努めている。また、新しい薬が処方された際は、処方された理由などの申し送りを徹底し、ユニット全職員が変化などを観察し、必要に応じ記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) カラオケ・あやとり・習字等、できること、したいことを行っていただくことで、気分転換をしていただいている。その他、食事の下ごしらえとして、もやしの根取りや、つくしの袴取り、渋柿むき等もしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出かけられる日を計画し、利用者の体調や気候などに考慮し、外出支援している。	
			(外部評価) 花見やさつき展、菊花展等季節の花を見に行ったり、お芝居を観劇する等、利用者に希望を聞きながら外出を行っている。利用者が重度化傾向にあるため、体調を確認しながら行うようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設としては原則的に金銭を預からないこととしているが、家族と利用者の責任において金銭を所持している利用者もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 設問の通り実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 花や植物を施設各所に置いたり、季節に応じた飾りや掲示（正月飾り、雛飾り、五月人形、クリスマスツリー、季節の掲示物など）をしたり、また、お香を炊く等することにより、利用者をはじめ、外部の方にも快適に過ごしていただけるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) リビング等の共用空間は風通しがよく、利用者が戸惑う様な騒音等もなくゆったりと過ごすことができる。いたるところに花や植物が置かれ、壁にはジグソーパズルが多数飾られている。浴室やトイレ等の清掃も行き届いて清潔である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 設間の通り実践している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの物を持参していただいております、使い慣れたものを主に使用していただいております。</p> <p>(外部評価) 利用者が使ってきた馴染みのものを持ち込み、落ち着いて生活できる空間になっている。また、家族の写真やぬいぐるみ等を飾り個性豊かな居室づくりがされている。快適に過ごすことができるようエアコンや空気清浄機も備えられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) お手洗い、浴室等の表示や、居室入口に自室であることが分かるような飾りを行うことで場所が明確になるようにしている。 また、足浴機、イージーウォーク等の活用により、運動不足解消及び利用者同士の交流が図られるようにしている。</p>	